

2018年 10月23日

大阪府教育委員会
教育長 酒井 隆行様

なかまユニオン大阪府学校教職員支部 支部長 山田光一
大阪市学校教職員支部 支部長 笠松正俊

本年度実施の中学3年生チャレンジテストを内申資料に使用しないことを求める要望書

私たちは、貴委員会が公立中学生を対象に実施されているチャレンジテストは、学校ならびに生徒への悪影響があることから廃止すべきであると考えています。

しかし、ここでは一旦その問題は置き、本年度実施の中学3年生チャレンジテスト結果は内申資料に使用しないことのみを要望するとともに応接の場を持つことを要望します。

貴委員会は、中学3年チャレンジテストはその調査結果を使い、「大阪府立公立高等学校入学者選抜の調査書に記載する評定が、公平性の高いものであるかどうかを確認する資料を作成し、市町村教育委員会と学校に提供」するため実施するといわれています。

しかしながら、本年度実施の中学3年チャレンジテストは公平性を担保することは到底不可能です。そのおもな理由を以下に示します。

- ① そもそも、6月20日実施予定であった問題をそのまま3ヶ月以上長期にわたって各学校で保管されたが、その機密性が保持できたかおおいに疑問である点。
- ② 6月20日から一旦9月4日に延期し、さらにそれを「9月6日から12日までの間に実施する」とされた。10月18日大阪府議会教育常任委員会において自民党原田亮議員が、「後日実施校では、塾やインターネットで試験問題を入手するなど不公平な事例も発生して」と発言されているように、明らかに問題が漏えいした事実がうかがえる点。
- ③ 特に、実施責任者である貴教育委員会が、9月6日実施校（ならびに市町村教育委員会）に問題回収の指示を出されなかったため、問題が広く出回る事となった懸念を抱かざるを得ない点
- ④ 英語の問題に一部不適切な問題があったにもかかわらず、差し替え等適切な配慮をせず実施された点

※9月4日台風で関西、6日大地震で新千歳空港は大きなダメージを受け閉鎖している状況であるにもかかわらず、英語の問題において、「大阪空港便から関西空港便に変更して新千歳空港に行くストーリーの問題」が出題されたこと。

- ⑤そして、最も重大な点は、大阪を直撃した大型台風21号が記録的な暴風雨により甚大な被害をもたらしたにもかかわらず、その2日後の実施を通知したことである。そのことにより自宅から避難中であつたり、停電等であつたり、もしくは心理的圧迫により実力を十分に発揮できないコンディションで受けざるを得なかった生徒が存在する点

以上の理由により、本年度実施の中学3年チャレンジテスト結果を内申資料作成に使用することは断念されることを求めます。